

事故多発、不具合の原因究明ないまま

オスプレイ飛行再開

周辺住民募る不安

クラッチの不具合で飛行を停止していた在日米軍横田基地（東京都多摩地域）配備の米空軍特殊作戦機CV22オスプレイが7日、原因究明もいまま本格的に飛行を再開しました。平和・住民団体は「周辺住民を事故の危険にさらす身勝手な飛行再開は許されない」として飛行中止、全面撤去を求めています。



横田基地を離陸するCV22オスプレイ7日(羽村平和委員会提供)

横田基地の監視活動を続けている羽村市の羽村平和委員会によると、7日は午前9時38分に1機が離陸し南へ向かい、相模湾、伊豆半島、神奈川県、埼玉県、横田基地周辺を飛行し、午後2時46分に帰着。同じ機体は午後4時14分に再び離陸し青森県の三沢基地へ向かいました。午後5時3分には別の機体が離陸し、関東周辺を飛行し午後9時4分に着陸しました。

自治体も懸念

米空軍特殊作戦軍は、エリンソンのギアボックス内に

あるローターに動力をつなぐクラッチが、「未知の理由」で滑る事故が2017年以降4件、過去6週間で2件発生したとして、8月16日に横田基地配備の6機を含む、52機全機を「地上待機措置」とすると発表。今月2日に、運用手順の確認、操縦士の教育・訓練、継続的な点検で安全は確保できるとして地上待機解除を発表。米軍は横田基地周辺自治体に対し、3日からチェック飛行のあと7日から「通常運用」を再開すると通告していました。

日本平和委員会は4日、「周辺住民をはじめ日本国民の命を危険にさらすなど断じて許すわけにはいかない」と飛行再開決定に抗議し、米海兵隊、陸上自衛隊を含むすべてのオスプレイの飛行中止・撤去を求める声明を発表。東京都と周辺6市町でつくる連絡協議会は日本政府と米軍に、周辺住民の不安をさらに募らせることも懸念されるとして、安全確保の徹底や十分な説明を要請しました。

平和団体、中止・撤去求める

国民の命軽視

横田基地の撤去を求める西多摩の会の窪田一忠事務局長は「CV22は2018年の配備以来、4回も緊急着陸をしています。飛行をやめるよう要求しても政府も米軍も聞く耳を持ちません。日本国民の命を軽視しています。国民、都民の命を守るためにも、欠陥機オスプレイの飛行、10機への増強は絶対に許すわけにはいきません」と話しています。

墜落・衝突事故多発 危険な訓練

「日本の陸地上空ではやらない」という日米合意を無視した

米軍の危険な空中給油が常態化

米、また空中給油か 山梨上空

米海兵隊岩国基地

（山口県岩国市）配備のKC130J空中給油機が22日、先週に続き富士山北側の山梨県上空で空中給油訓練を行った可能性があるとがわかりました。東富士演習場（静岡県御殿場、裾野両市と小山町）では20〜22日に、米軍機2機による模擬爆弾投下訓練の実施が通告されていて、富士山周辺地域で対地攻撃訓練と一体で空中給油訓練が常態化していま

す。 京都平和委員会がネット上に公開された航跡を確認したところ、岩国基地を午前10時20分ごろ離陸したKC130J空中給油機は11時半ごろから午後1時40分ごろまで、山梨県富士河口湖町から甲府市、南アルプス市の上空を東西に長いトラック状に巡回飛行。東富士演習場の監視活動を続けている御殿場平和委員会によると、午後0時6分ごろ、同演習

場上空をジェット機が飛行したのを確認しました。 山梨県上空では14〜16日も3日間連続で岩国基地のF35Bステルス戦闘機2機とKC130J空中給油機1機による空中給油と、東富士演習場でのF35Bの模擬爆弾投下を伴う地上部隊支援の「近接航空支援」の訓練を実施しています。同期間に東富士演習場では米海兵隊歩兵大隊が演習中で、地上からのF35



Bへの爆撃誘導訓練も行いました。

3月と6月にも、岩国基地のF35BとKC



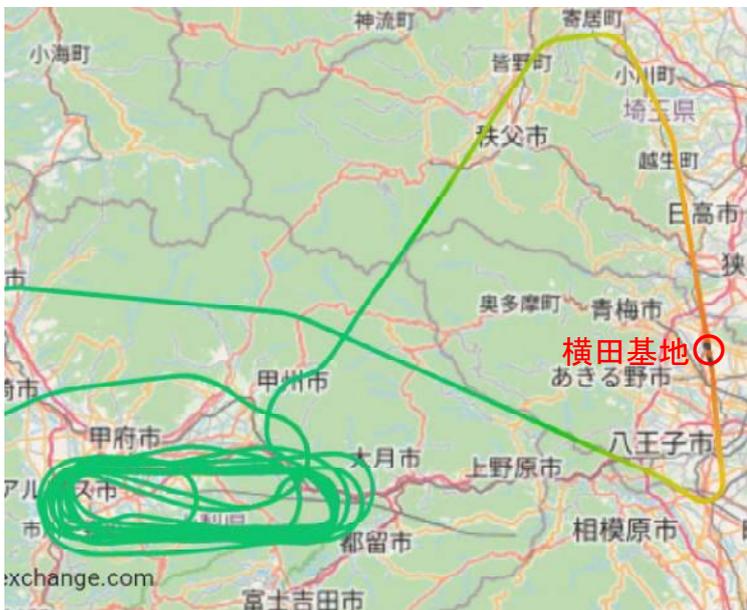
KC-130J空中給油機は、山口県岩国基地からたびたび横田基地に飞来し、周辺の住宅地上空で急旋回飛行をしながら、タッチアンドゴー訓練を繰り返している。



富士山北側での空中給油とみられる飛行後に東京・横田基地へ飛来したKC130J空中給油機 22日（羽村平和委員会提供）

赤旗 2022.9.24

130Jは東富士、北富士（山梨県）両演習場での地上部隊の演習と一体で「近接航空支援」と富士山周辺での空中給油訓練を行っていました。



横田基地を拠点にして空中給油